

広島大学教育学部物理学研究室（広島大学）

平成
24年度

◎チーム紹介

「広島大学物理学研究室」は、その名の通り広島大学教育学部物理学研究室の7名からなるチームです。

主な活動は、科学実験を実際にして見せたり、子どもたちと一緒に工作や実験を楽しんだりすることです。細かい原理の説明はあまりせず、子どもたちが疑問に感じたところを実際に体験して解決することに重点をおいています。ぜひ一緒に科学実験を楽しみましょう。

◎活動の様子

活動教室：こうざん放課後子ども教室（世羅町）

日 時：平成24年6月2日（土）9：30～11：30

場 所：甲山自治センター

参加人数：3名（大学生ボランティア）、11名（子ども）



1つめの実験は大気圧の実験です。空き缶を温め、水につけると「グシュッ」とつぶれてしまいました。次はプラスチックの魚と水が入ったペットボトルを用意し、ペットボトルをつまむと、あら不思議。プラスチックの魚が、沈んでいきました。

2つめは、片栗粉を使った実験。片栗粉と水を混ぜたものを手のひらにのせてぎゅっと握ると固まるのに、手を開くと液体に変身。



3つめは、ストローを使っていろいろな音を出す実験。子どもたちは、ストローの長さを調節して、いろいろな音を出していました。

4つめは、シャーペンの芯に電気を通す実験。「芯に電気を通すとどうして煙がでるのかな」と子どもたちと問答を繰り返しながら進めました。

5つめは、静電気の実験。みんなで円い輪になって、手をつなぎ、静電気を流しました。「ピリッ」とくる静電気に、子どもたちは大歓声。

「不思議」がたくさんあった活動でした。

○大学生の皆さんからの声（インタビュー、アンケートより）

- ・ 子どもたちが楽しかったという感想をもってくれました。
- ・ どのような実験が子どもたちの印象に残るのがわかりました。
- ・ 自分たちの勉強になるからこれからも放課後子ども教室で活動したいと思います。

○市町スタッフの皆さんからの声（インタビュー、アンケートより）

- ・ 予定した2時間があったという間に過ぎたと感じました。（いかに充実した活動であったかということの表れです）
- ・ 学年、性別も異なる10名が集まりましたが、特にけんかなども起きず、安心しました。
- ・ 子どもたちは少人数だったので、みんなが体験（参加）でき、いきいきとした表情、反応がありました。
- ・ 今年1年はいわゆる「理科ばなれ」対策として「科学のふしぎを学ぼう」というテーマを掲げて実施するので、今後も「ワクワク学び隊」の派遣を受け入れていきたいです。

◎チーム紹介

「広島大学教育学部物理学研究室」は、その名のとおり広島大学教育学部物理学研究室の7名からなるチームです。活動内容は、科学実験などを子どもたちと一緒にいきます。静電気の実験や大気圧の実験やストローを使って音を楽しむ実験などがあります。

皆さん、放課後子ども教室で様々な科学実験を楽しみませんか。

◎活動の様子

活動教室：府中町放課後子ども教室（5教室合同）

日時：平成23年7月9日（土） 13:30～15:00

場所：くすのきプラザ

参加人数：5名（大学生ボランティア）、51名（子ども）



静電気の実験です。
子どもたちは、静電気で大盛り上がり。20名で手と手をつなぎ、ピリッ！
全員に電気は流れたはずですが、ピリッと感じた子と感じない子がいました。次は10名ずつに分かれてチャレンジし、見事成功！全員ピリッと感じました。



大気圧の実験です。失敗、成功を繰り返し盛り上がりました。
ストローを使っていろいろな音を出す実験です。子どもたちは、それぞれがストローをカットし、いろいろな音色を奏でていました。

○学生の皆さんからの声（インタビュー、アンケートより）

「実験」は、多くの子どもが興味をもち、多くの子が心を動かすものだと感じました。今回、子どもたちを通して学んだことを教員になって生かしたいと思っています。

子どもたちがこんなに喜んでくれるとは思っていませんでした。しかし、実際に小さい子に教えるということが、こんなに難しいとは思いませんでした。

○市町スタッフの皆さんからの声（インタビュー、アンケートより）

通常、教育委員会の事業で呼びかけると2,000人に対して100～200名程度の参加となりますが、今回はなんと77名の登録児童のうち52名の参加申し込み(67%)があり、うち51名が参加してくれて担当者としても、保護者や児童のニーズに合って事業を展開できて非常に喜んでます。今後とも保護者、児童のニーズを踏まえた事業展開をしていきたいと考えています。